

グローバルキャッシュ マネジメントシステムの現実解 キャッシュマネジメントシステム(CMS)の現状

下村雄吾

アビームコンサルティング株式会社
プロセス&テクノロジー事業部FMCセクター
シニアマネージャー

企業の資金状況は改善の道半ばであり、金融機関や投資家からの調達環境はまだまだ厳しい。このような状況下において、これら外的要因に左右されない「社内調達」とも呼ばれるCMSによる資金効率化の取り組みは重要性を増している。国内CMSに関しては従前から企業の関心が高く、二〇〇七年に弊社が行った国内CMSベンチマーク調査によれば、有効回答企業の約八〇%が資金プリーングをはじめとするCMSを導入しており、現状では広く浸透してきていると言える。

一方、外貨の取引量が多いグローバル企業では必然的にグローバル、マルチカレンシー、マルチバンクによるグローバルCMSのニーズが高まっており、先進的な企業ではすでに主要通貨において実践している。

グローバルCMSの効果

一般的に、CMSによる期待効果には次のようなものがある。

- ① 所要資金量の削減
- ② 資金調達コストの削減
- ③ 余剰資金運用利率の改善
- ④ 振込手数料の削減

⑤ ガバナンスの強化

①から③については資金プリーングを実施することにより効果を期待できるが、④についてはネットインギングや支払代行への取り組みが必要となる。⑤についてはCMSが高度化されるほど度合いが高まっていくことになる。

グローバルCMSの導入により期待できる効果としては、前述の①から⑤を各通貨において享受できることに加えて、次のようなものが挙げられる。

- ⑥ 外貨エクスポージャーの削減
- ⑦ 為替ポジション管理業務の負荷軽減

このようなことから、グローバルCMSの導入効果は資金面、為替面で魅力的ではあるが、その導入は一部の先進的企業に限られていることも事実であり、そこには業務面、システム面で越えなければならぬハードルが存在し、道を阻んでいることがうかがえる。

グローバルCMS導入の現実解

グローバルCMSにおける業務面のハードルは、複数通貨を取り扱うことになるため、税法、規制などの国ごとに異なる要件を満たす必要があるという点である。具体例として

は、タックスヘイブン税制、源泉税、租税条約、送金規制、外為報告義務などが挙げられる。

一方システム面では、資金のグローバルプリーング基盤が大きなハードルと言える。国内CMSのプリーングサービスは国内・円貨にのみ対応しており、現状ではクロスボーダーでのプリーングまでカバーされていない。このような現状では、国内CMSと域内CMSを組み合わせたスキームを構築することが現在における現実的な解といえる(図表参照)。この場合、各域内の金融機関が提供するCMSを併用して域内ごとに効率化を図る必要があるため、マルチバンク対応やSWIFTなどの国際標準フォーマットへの対応なども求められる。域内ごとに効率化した資金は、ドルなどの主要通貨に変えて国内の統括会社に集中させる。アジアなど規制が厳しく変わりやすい地域では、CMSが利用できず都度依頼ベースで統括会社に資金集中するなど工夫が必要な場合がある。

スキームの構築に加えて、CMS導入の効果を享受するためのもうひとつの重要なポイントは資金集中度の向上である。資金集中度の上のためには、構築したスキームにどれだけの

